

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 10 月 7 日現在

機関番号：24201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520870

研究課題名(和文) 現代中国の民族識別期における旗人の動向に関する研究

研究課題名(英文) Research on the Bannermen's Activities during the Period of China's Nationality Identification Project

研究代表者

ボルジギン プレンサイン (Borjigin, Burensain)

滋賀県立大学・人間文化学部・准教授

研究者番号：00433235

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は現代中国の56の民族の枠組みが如何に認定されたかについて、八旗集団の動向を把握することを通して分析した。主に清帝国から現代中国成立過程において、民族集団が如何に融合集散を繰り返したかを明らかにした。平成24年度には「中国の政治改革と少数民族の権利」と題する国際シンポジウムを開催し、ケンブリッジ大学やハーバード大学、中国社会科学院などの研究者を集めて議論した。ここ数年間、海外で行われた国際会議に出席し、研究成果を発表した。平成26年度には「軍閥と内モンゴル」と題する科研シンポジウムを開催し研究の取りまとめをした。研究期間中に学術論文3編、編著書4部を発表し、学会発表を3回行ってきた。

研究成果の概要(英文)：This project aims to study the process of the identification and formation of modern China's 56 nationalities by using the case of the Qing dynasty bannermen's activities. Its main objective is to clarify the constant fission and fusion of ethnic groups in the period from the disintegration of the Qing Empire to the founding of modern China. In 2012 I organized an international symposium entitled "China's Political Reform and Minority Nationality Rights", attended by scholars from the University of Cambridge, Harvard University, and the Chinese Academy of Social Sciences. In the past few years, I attended international symposiums organized abroad and delivered my research findings there. In 2014 I organized an international symposium entitled "Warlords and Inner Mongolia" to conclude the project. In the project period, I have published three research papers, edited four books, and made presentations at three international symposiums.

研究分野：東洋史

キーワード：現代中国 少数民族 辛亥革命 八旗 民族識別

### 1. 研究開始当初の背景

2011 年は、清帝国が崩壊した百周年にあたる。辛亥革命の勝利によって、中国では漢民族が主導する多民族国家 = 中華民国、そして社会主義多民族国家 = 中華人民共和国が相次いで登場するが、新しい国家を構成する各民族集団の枠組みが定まるには半世紀以上かかった。その間、清朝時代に旗人、民人、外藩人という三つの枠組みにおかれていた人々、なかでもとりわけ、統治集団を形成しながらも複雑な構造をもっていた旗人たちは、清朝の崩壊に伴って四分五裂し、それぞれが背負う歴史的、集団的背景によって異なる道を歩むことになる。1950 年代の民族識別の際にこれらの旗人たちは果たしてどの民族集団にそれぞれ合流したのか、その実態を解明する必要があった。一方、清朝の遺産を受け継いでつくられた中華民国は「五族共和」を唱えたが、この時期をめぐる研究においては五族（漢滿蒙回蔵）の実態やその他の民族集団のあり方について十分に検討されてこなかった。また現代中国の民族問題の研究に際しても 1950 年代における民族識別作業の全容が明らかにされていない。つまり、清帝国の崩壊がもたらした東アジア全域にわたる国家と民族の再編過程を整理することは、中国を中心とする関連国家のその後の性格を占ううえで極めて重要な視点である。本研究は、清朝崩壊後の一世紀を迎える時期に旗人の民族的帰属意識の変遷を整理することによって多民族国家 中国の成立を考察するものである。

### 2. 研究の目的

本研究は、現代中国の国家の基本構造を形成している 56 の民族の枠組みが確定される 1950 年代において、中国領内に暮らす各民族集団が如何に整理、認定されていたかを、旗人諸集団の動向を把握することによって分析するものである。その目的は、清朝という一つの帝国の解体から中華人民共和国というもう一つの多民族国家（「帝国」）の組み立て過程において、規模の異なる民族集団が如何に融合集散を繰り返してきたかを明確にすると同時に、民族とは如何につくられていくものなのか、そして国家によって人為的につくられた民族という枠組みに生きる人々の集団的所属意識が如何なる状態であるのかを解明しようとするものである。

### 3. 研究の方法

本研究は、まず日本国内における文献調査や本研究にまつわる既存の研究成果を総合的に収集分析する。申請者は対象地域において、現地の関係機関（例えば「民族宗教委員会」など）、大学や研究機関と十数年にわたって人的ネットワークを構築してきた経緯があり、複雑な環境での現地調査、と

りわけ複数言語による資料収集、フィールドワークを実施できる条件を備えている。また研究対象国と地域の研究者との連携によって、この分野における最新の研究動向を即時把握し、国際学会などの場で本研究の成果を随時発信していきたい。本研究は、申請者が行ってきた今までの関連研究の総仕上げでもあり、研究成果のまとめに努めたい。

本研究は、最初の一年間においてまず対象地域におけるフィールドワークを重視した。清朝の崩壊によって清朝時代の支配階級であった八旗の人々は中国本土の各地をはじめ、モンゴル国や台湾など東アジアの国と地域に分散した。それにより、本研究のフィールドワークもこれらの対象地域におよんだ。フィールドワークは資料収集とこれらの地域の研究者との連携や交流と旗人の子孫に対する取材を主とした。二年目からは研究成果を取りまとめるための国際会議を組織し、開催した。また、海外におけるフィールドワークの際には海外で開かれる国際会議に出席して、関連の研究成果を発表することにつとめてきた。この種の研究は国際的な研究者ネットワークの積極的な構築と、それによる情報交換、研究交流の推進によって進められるものだと確信するようになった。

### 4. 研究成果

本研究は現代中国の 56 の民族の枠組みが確定される 1950 年代において、中国の領内に暮らす各民族集団が如何に民族として認定されたかについて、八旗集団の動向を把握することを通して分析したものである。その目的は、清朝という一つの帝国の解体から中華人民共和国というもう一つの多民族国家の組み立て過程において、規模の異なる民族集団が如何に融合集散を繰り返してきたかを明らかにしたものである。

研究期間がはじまった平成 23 年度より、清朝時代の各種八旗集団の子孫が集中して居住する中国の東北三省（黒龍江、吉林、遼寧）、山西省、北京市、河北省や内モンゴル自治区、そしてモンゴル国など関連地域においてフィールドワークを実施した。これらの地域では各種の八旗集団が駐屯していたが、清朝の崩壊後、漢族集団やモンゴル人集団にそれぞれ合流し、さらに 1950 年代の民族識別後、満族やモンゴル族集団へと加わって行った。その後の海外調査では上記の地域における再調査と台湾など関連地域でもフィールドワークを行った。

本研究を遂行するなかで、1950 年代以後から行われたそれぞれの民族集団へ帰属を求める八旗集団の動きは 21 世紀に入った近年までつづいていることを把握した。加えて、近年の中国における少数民族政策の変化を踏まえると、旗人集団の融合集散の歴史は多民族国家 中国の国家構成におけ

る歴史的要素の一端を理解することができたといえよう。

研究の進展にともなって、平成 24 年度には「中国の政治改革と少数民族の権利 いわゆる「第二次民族政策」をめぐる」と題する国際シンポジウムを開催し、研究のなかで連携をしてきたケンブリッジ大学やハーバード大学、そして中国社会科学院、中央民族大学、内モンゴル大学の研究者を滋賀県立大学で一度に集めて中国の少数民族政策について議論した。また研究期間がつづいたここ数年の間、海外で行われた国際会議に出席して、本研究の成果について研究発表おこなった。本研究は、25 年度に予定していた国際シンポジウムの開催が延期されたため研究機関も一年間延期した。最終年度である平成 26 年度には「軍閥と内モンゴル」と題する科研シンポジウムを開催し研究の取りまとめをした。下記で示した通り、研究期間中に国内外の雑誌で 3 本の論文を発表した。また、ケンブリッジ大学で発行されている“Inner Asia”雑誌の特集号をほかの研究者と共同で編集し出版した。日本国内では、論文集を一冊、資料集を 2 セット(11 冊)出版した。またこの期間中に三つの重要な国際会議に参加して関連する研究成果を発表した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

ボルジギン・ブレンサイン著「地下資源開発とモンゴル人の自然観」(中国語)『内蒙古民族大学学报』2013 年第 2 期

ボルジギン・ブレンサイン編著『内モンゴル東部地域における定住と農耕化の足跡』アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究叢書 6、名古屋大学文学研究科、2013 年 3 月、(254 頁)

ボルジギン・ブレンサイン監修解説『戦前期モンゴル社会関連実態調査資料集成』第一部『非開放蒙地調査資料』1 - 6 集、(3139 頁)近現代資料刊行会、2013 年 10 月

ボルジギン・ブレンサイン監修解説『戦前期モンゴル社会関連実態調査資料集成』第二部『開放蒙地調査資料』1 - 5 集、(2468 頁)近現代資料刊行会、2014 年 3 月

Inner Asia, Special Issue Geopolitics and Geoeconomics of Mongolia's Natural Resource Strategy, Uradayn E.Bulag, Ipei Shimamura, and Burensain Borjigin (eds.) University of Cambridge, 2014、Total page 455

ボルジギン・ブレンサイン著“Найман хошууны монголчууд хаашаа явсан бэ: Ляодуны газарт суусан баргачуудын жишээгээр”(モンゴル語:八旗モンゴルは何処へ行ったのか—遼東地域のバルガ人を事例に)サンピルドンドブ・チョローン、胡日查、岡洋樹編『清朝とモンゴル』、CNEAS Reports 13、東北大学東北アジア研究センター、pp31-40、2014 年 8 月 31 日

ボルジギン・ブレンサイン著“Халх голын дайн ба Өвөр Монголд явагдсан Японы төмөр замын ажиллагаа”(モンゴル語:ノモンハン戦争と内モンゴルにおける日本の鉄道建設)“International study”、No3,2014 年、pp54-63、モンゴル科学アカデミ国際関係研究所機関誌

ボルジギン・ブレンサイン「Найман хошууны монголчууд хаашаа явсан бэ: Ляодуны газарт суусан баргачуудын жишээгээр」“ЧИН УЛС БА МОНГОЛЧУУД”олон улсын эрдэм шинжилгээний хурлын”国際シンポジウム「清朝とモンゴル人」、2012 年 9 月 7 日、モンゴル国・ウランバートル

ボルジギン・ブレンサイン”Re-Understanding Inner Mongolia From within the Sino-Japan-Mongolian Relations、International confurenc “Non-Han Chinese diasporic communities beyond China”,Date: 4-5 April 2014,Venue: The Australian National University, Canberra.

ボルジギン・ブレンサイン In Search of the Political Space for Multi-ethnic Coexistence-The Ongoing Minority Ethnic Political Debate 、2-nd Asian Future Conference “Diversity & Harmony”、22-24 August 2014,Bali INDONESIA.

〔雑誌論文〕(計 3 件)

〔学会発表〕(計 3 件)

〔図書〕(計 4 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

ボルジギン・ブレンサイン  
(Burensain Borjigin)

研究者番号：00433235  
滋賀県立大学 人間文化学部 准教授

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：